

秋まき青刈の王者  
青刈収量の多い

雪印改良

# 青刈えんばく

つくり易く生育が早いので、寒地では春にイタリアンライ、ベッチ、豌豆と混播し盛夏に利用、暖地では秋に畑や水田の裏作にとり入れ、早春～夏季の青刈として広く利用されています。雪印改良種は、とくに葉重量多く、分けつ旺盛、しかも寒さにも強い生草収量の最高の優良品種です。品種には次のものがあります。

## 品 種

### 豊 葉 (秋まき用)

雪印改良種、秋まきに適する品種で、分けつ多く、葉数が非常に多い晩生型の極多収種。耐寒性強く霜枯れせず、えんばく秋まき限界地帯に適し再生力も強いので、2～3度刈に適す。菌核や銹病にも強い。

### 太 豊 (暖地秋まき、寒地春まき用)

雪印改良種、草丈高く茎や葉は極めて巨大で、量も多い中生型の極多収種。1回刈の青刈やサイレージとしての利用が有利。

### 雪印101号 (秋まき用)

雪印改良種、寒さに極めて強く分けつの甚だ多い晩生型の多収種。草質軟かく草丈高いので、倒伏しないうちに早刈が有利。銹病や菌核病にも強い。

**前 進**：子実用として広く利用されている品種で短程ですが、葉や稈の大きい早生種。

**岡山黒**：非常に生育の早い早生種、草丈は低いが暖地水田裏作の早刈りに適す。

## 増収のポイント

- 出来るだけ早くまくこと。暖地で8月下旬～9月に播くと、年内1回刈取り、翌年3月下旬～4月上旬頃から青刈できる。
- 肥料は充分に。少くとも基肥として堆厩肥2,000\*、硫酸20\*、過石20\*、塩加5\*は入れること。
- 青刈用の品種を利用すること。
- 数回刈の時は生長点を切らぬ様に10\*位の高刈とする。又、出穂期までに刈取った方が嗜好がよい。  
(豊葉は割合低刈りにも耐える)
- 播種量は単播の場合8～10\*ですが、できるだけ下記の混播が有利。
- 混播は条播よりも散播の方が成績が良い。
- 混播例 (10アール当りキロ)

{ えんばく 2～3	{ えんばく 2～3	{ えんばく 3	{ えんばく 2～3
{ ベッチ 4～5	{ ベッチ 4～5	{ イタリアンライ 1	{ えんどう 7～8
	{ イタリアンライ 0.5		

## 耐寒性新青刈えんばく登場！

### セブンオート

試作用小袋 50円  
特 用 袋 200円 1 畝入  
(約70坪)

理想的な青刈えんばくが育成されました

このすばらしい特性をご覧下さい。

- 寒さに対して強い。
- 草丈は高いが、稈が強く殆んど倒伏しない。
- 病気に対しても優れた抵抗性をもっています。
- 嗜好性も良く分けつも多く、良質の青草を生産します。



新発売